



NEWS LETTER

No.27
2020

就任のご挨拶

学長 玉手 英利

今年4月に学長に就任しましたので、よろしくお願いいたします。

山形大学は、平成22年(2010年)に策定された山形大学男女共同参画基本計画により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ってきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」(平成21～23年度)や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)」(平成27～令和2年度)の採択を経て、研究・就業環境の整備を行ってきました。

令和元年度に計画期間が終了することから、山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を策定しました。計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間です。地域に根ざし世界を目指す大学として、多様な価値観に基づく教育・研究を推進し、県内はもとより、東北地区、さらには全国の中にあって模範となる「男女共同参画」の実現された大学となるように、取組を加速していくことになります。

令和2年4月、私が学長となり新執行体制に変わりましたが、学長自ら先頭に立ち、山形大学男女共同参画基本計画(第2次)に基づき、本学の学生及び職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮できる大学を目指すとともに、他大学や地域社会とネットワークを築き、男女共同参画及びダイバーシティを積極的に推進していきます。



玉手英利 学長

男女共同参画推進室長 理事・副学長 小島 浩孝

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。今年度より男女共同参画推進室長に就任しましたので、よろしくお願いいたします。

山形大学男女共同参画基本計画(第2次)が、今年4月から実施されています。第2次基本計画では、平成30年度実施した学内アンケートの結果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、方針及び具体的施策を定めました。女性教員比率や女性管理職比率はこれまで以上に高い目標を設定し、無意識のバイアスや性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。

今年度の男女共同参画推進委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面会議になりましたが、第2次基本計画に基づき、各キャンパスの年度計画の作成、LGBT対応ガイドライン策定のためのワーキンググループの設置など、具体的な取組を開始しています。

今年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」の終了年度であり、来年度は第3期中期目標・中期計画の最終年度ですので、目標達成に向けて一層の努力が必要だと考えています。また、大学コンソーシアム山形の「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」や「全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議」など、これまでに構築したネットワークをさらに充実させていきます。

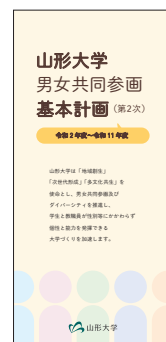
山形大学は男女共同参画の新たなステージに向けて歩み出しました。皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



小島浩孝 室長

令和2年4月 第2次山形大学男女共同参画基本計画が施行されました。

- 平成21年 1月 山形大学男女共同参画 学長宣言
- 平成21年 2月 男女共同参画推進室改組
- 平成21年 5月 「女性研究者支援モデル育成事業」採択(平成23年度まで)
- 平成22年 6月 山形大学男女共同参画基本計画策定
- 平成27年 7月 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」採択(令和2年度まで)
- 平成30年 4月 大学コンソーシアム山形「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」設置
- 平成30年11月 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロックの幹事大学
- 令和元年 5月 第2次山形大学男女共同参画基本計画策定のためのWG設置
- 令和2年 4月 第2次山形大学男女共同参画基本計画施行



令和2年度男女共同参画推進委員会の報告

第2次山形大学男女共同参画基本計画の施行に伴い、今年度から関連する規程も一部改訂され、男女共同参画推進委員は各キャンパスから選出されることになりました。

令和2年度男女共同参画推進委員会（書面審議）では、第2次基本計画に基づく年度計画や具体的施策について下記のとおり提案し、5月22日に承認されました。

(1) 第2次山形大学男女共同参画基本計画に基づく年度計画（令和2～3年度）

基本計画の計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10ケ年で、2年目の令和3年度及び5年目の令和6年度に中間評価を実施することになっています。従って、今年度は令和2～3年度の全学の年度計画を確認し、各キャンパスで年度計画を作成します。また、今年度末に達成状況を点検し、来年度は男女共同参画に関するアンケート（第7回）の実施を予定しています。

(2) 今年度の取組の重点

① 女性教員比率の目標

基本計画では、女性教員比率20%以上（教授15%、准教授23%以上）、大学経営における女性参画20%以上という目標を設定しています。当面、中期目標（令和3年度に女性教員比率17%、管理職比率20%）と、今年が最終年であるダイバーシティ事業の目標（研究員を含めた女性研究者比率20%）の達成をめざすことを確認しました。

② 無意識のバイアスに関するチェック機能の導入

「女性活躍加速のための重点方針2018」以降、無意識に男女の役割に対する固定的な価値観を与える、「無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）」への対応が求められています。基本計画の具体的施策1-(3)で、教職員の採用や昇進などにおいて、性別による差別等がないか、無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを定期的に点検することが定められています。今年度より、各部局に依頼していた人事関係の調査に、無意識のバイアスに関するチェックを加えることにします。（参照「無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか？」男女共同参画学協会連絡会（2017））

③ LGBT対応ガイドラインの策定

「基本計画の具体的施策4」に基づき、本学の学生及び教職員が性別、性的指向・性自認にかかわらず、個性と能力を發揮できる組織を目指し、LGBT対応ガイドラインを策定することになりました。

令和3年度までの策定を目指し、6月19日に策定のためのワーキンググループを学内に設置し、検討を開始しました。ワーキンググループ委員は、推進室長が委嘱した教職員6名（学内有識者や担当職員など）と学生3名で、座長を中澤未美子 准教授に依頼しました。

コラム ～第2次基本計画施行に寄せて～

「通勤か家族かそれが問題だ」

杉野 誠 学術研究院（人文社会科学部担当）准教授

私にとって通勤時間は、ワークライフバランスにおいて重要な点だと考える。都会は便利な反面、家賃が高く、職場に近い場所に住むのが難しい。そのため、多くの人は、職場から遠く離れた場所から通勤を余儀なくされる。私も山形大学に赴任するまでは、片道2時間以上かけて通勤していた。週末は、その代償として、子供と触れ合う時間を失っていた。「何のために働いていたのだろう」。「妻子に良い暮らしをさせてあげるため」と自分に言い聞かせていたが、本当だろうか。今思えば、妻子の幸福度は高くなかったのではないだろうか。子供の面倒を一切見ることもなく、家で平日の疲れを癒すだけの私を見て何を思っていたのだろうか。

仙台は、山形に赴任する際、住む候補にあがった。しかし通勤時間の長さや緊急時に帰宅困難になる可能性を考慮して、大学から徒歩で15分圏内に住むことを決めた。この選択は、非常に良いものだったと思う。仕事が多い時は、帰宅して家族全員で夕食を共にしてから、再度出勤できる。仕事が少ない時は、早めに帰宅して子供たちの勉強を見たり、遊んだりすることもできる。さらに、バスの時間などを気にしなくても良くなり、心に余裕が生まれた。時間と体力は有限である。ワークライフバランスを考える際には、これらの有限の資源を考慮して行動する必要があるのではないだろうか。



授業の様子「キャリア形成とワークライフバランス」
令和元年11月

令和2年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」 山形大学「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」採択決定

令和2年度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に、山形大学が申請した「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」が採択されました。事業期間は令和2年度～令和3年度の2年間です。（補助金の上限は毎年300万）

早速、各キャンパスに協力いただき、全学の事業として取り組んでいます。特に、女性研究者や女性大学院生の皆様には、裾野拡大事業でご活躍いただけてきましたが、これからは各地域の中高訪問などにもご協力をよろしくお願いいたします。

このプロジェクトでは、女子中高生の理工系分野への興味関心を高め、また理工系分野への進学・就職に関する理解を深めるため、女性研究者や大学院生が中学校・高校を訪問し、女子が興味を持ちやすいように工夫した4つのプログラムを山形県全域で提供します。

【4つのプログラム】

- ①県内の中学校（毎年4校）を訪問し、女性の研究者・大学院生の講師が、女子が興味を持ちやすい実験を行う出前講座を提供し、理工系の女性が活躍している職場を紹介します。
- ②県内の高校（毎年4校）を訪問し、女性の大学院生が探究活動の指導や進路講話を行う出前講座を提供し、理工系の女性が研究している企業を紹介します。
- ③中高生と保護者を対象に、女性の研究者・大学院生との交流や実験に参加できるサイエンスカフェを県男女共同参画フェスティバルにおいて開催します。
- ④県内全ての中学1年生（1万人）に本プロジェクトの紹介チラシを配布します。

山形大学女性大学院生ネットワーク (山大JOIN)

平成30年度から、本学に在籍する女性大学院生（文系・理系）のネットワークを設立しています。活動内容は、中高生を対象とした出前授業、交流会の参加やキャリア形成の支援、男女共同参画事業の運営スタッフなどです。女子中高生理系進路選択支援事業は、JOINの皆さんの協力が不可欠です。また、講師を務める活動をととして自らの将来を考える機会になることが期待されます。（登録は、男女共同参画推進室まで）

ヤマガタ夢☆未来Girlsプロジェクト

～人の役に立つ仕事をさがそう～

| | |
|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 特徴 | 女性研究者と女性大学院生が山形県内の中学校・高校を訪問サイエンスカフェ(チェリアフェスティバル)を開催 |
| 実施体制 | 山形大学・男女共同参画室(実施) 山形県教育庁(共同) 各市町村教育委員会(共同) 山形県男女共同参画センター(共同) |
| 取組 | 女性サイエンティストによる訪問型プログラム 女子中高生を対象にした女子が興味を持ちやすいプログラム |

山形県内4地区
サイエンスカーで
夢と未来を届けます



山大サイエンスカー



中学校

女性研究者と実験
リケジョの職場体験

高校

課題探究の指導
(女性大学院生)

チェリアフェスティバル

サイエンスカフェ
中高生と保護者

* 県内全中学生1万人に“チラシ”を配布

| | | |
|-------------|-------------------------------------------------------|------|
| 企画改善 | 事前/事後アンケート | 定例会議 |
| 成果発信 | エフエム山形(番組: Be 山形山大サイエンスカー)にて実験教室をオンエア 新聞・テレビでの広報活動 | |



「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」の終了年度

山形大学は、平成27年度より大日本印刷研究開発センター、米沢栄養大学と連携し、本事業に取り組んできました。「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマとし、女性研究者の活躍のための基盤整備、異分野交流、研究力強化を進めたことは評価されています。後半では、山形大学COIとの連携を強め、県内の「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」、「全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議」とのネットワークを活用し、ダイバーシティを推進しています。今年度は、南東北会議の拡大を目指します。

本島 優子 先生

学術研究院(地域教育文化学部担当) 准教授



私たちは誰も赤ちゃんの時代がありました。でも、赤ちゃんの頃の記憶を覚えている人はあまりないかもしれません。誰も赤ちゃんだったのに、すっかり忘れている。

赤ちゃんってなんだか不思議。そんなふうに感じている人もいるかもしれません。

赤ちゃんの心の解明に迫る一私の研究室では、おそらく東北では初めての“赤ちゃん研究室”として、2018年より赤ちゃんの心の発達についての研究に取り組んできました。特に私が関心を持っているのは、赤ちゃんの感情の発達についてです。喜び、怒り、恐れといった基本的な感情がいつ頃現れ、どのように発達していくのか、そして養育者の関わりや存在が赤ちゃんの感情の発達にどのような役割を果たすのかについて、生後3ヵ月から3歳頃にわたって赤ちゃんの育ちの姿を追跡し、明らかにしたいと考えております。

赤ちゃん研究は、今や全国のさまざまな大学で行われていますが、ここ山形では気候や交通の便など首都圏の大学と比べると決して好条件

「ようこそ赤ちゃん研究室へ！」

ではないことから、当初は本当に研究協力者が集まるのか、一抹の(いえ、かなりの?)不安がありました。しかし、蓋を開けてみると、予想以上にたくさんの応募があり、山形市だけでなく、東根市や南陽市などからもご参加いただき、これまでに約50組の親子にご協力いただきました。山形の地域の親子の皆様のおかげで、順調に赤ちゃん研究を進めることができています。

しかし、2020年の新しい年が始まり、ちょうど研究協力者の赤ちゃんたちが生後1歳半を迎える頃、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、私たちの日常の世界は大きく一変しました。私の研究の世界も然りです。安全と予防を最優先に、すべての研究活動を中断することにしました。1歳代といえは、よちよちと歩き出し、言葉もしゃべり出し、まさに可愛い盛り。私の中の協力者の赤ちゃんたちは、(まだ歩行もおしゃべりもみられない)赤ちゃんの姿のままにストップしており、成長した愛らしい1歳代の姿を目にすることができないのは、(これぞ縦断研究の醍醐味なのに)とてもさみしく残念です。小さかった赤ちゃんたちが、今ではどのようなお子さんに成長しているのでしょうか? 現時点ではまだ研究再開の目

途はたっておりませんが、いつか無事に調査を再開し、協力者のご家族の皆様と再会できることを願っております。

人生の起点としての赤ちゃん時代。OECD保育白書では“人生の始まりこそ力強く”というスローガンのもと、人生における乳幼児期の子どもの育ちが重要視されており、子どもの育ちを支える保育や幼児教育の役割が強調されています。人生早期の乳幼児期の重要性への注目が高まっているのです。人生の船出が幸せに満ちたものであることを願って、すべて子どもたちが力強く人生を歩み出すことができるよう、赤ちゃんの健やかな発達を研究を通して支えていきたいと思っております。

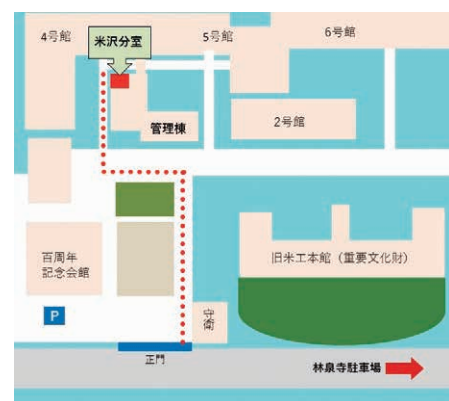


実験室の一風景

令和2年度の事業について

新型コロナウイルスの影響を受けていますが、工夫しながら次のように進めています。

- 4月 1日 山形大学男女共同参画基本計画(第2次)施行、パンフレット・リーフレットの配布
山形大学の女性研究者12名に前期研究支援員を配置(男性研究者8名)
 - 4月14日 男女共同参画推進室ミーティングの開催
 - 4月22日 男女共同参画推進委員会(書面会議)(5月22日承認)
 - 5月29日 ライフイベントからの復帰支援採択者(2件)の採択
 - 6月 4日 女性代表共同研究支援(6件)の採択
 - 6月下旬 「管理職セミナー及び男女共同参画フェスタ」開催中止
 - 7月 3日 米沢分室会議(TV会議)、全国ダイバーシティネットワーク組織幹事会(Zoom)
(予定)
 - 7月22日 米沢分室移転(工学部管理棟1階へ)
 - 10月 1日 後期研究支援員の配置
 - 10月 9日 英語論文セミナー(小白川、各キャンパスTV会議)
 - 11月上旬 シンポジウム:ダイバーシティ事業報告
- ◎裾野拡大事業やWLB懇談会は、感染防止に配慮して開催予定



米沢分室の新事務室のご案内
(工学部管理棟1階に移転)

編集後記/「そっか!良い人生は、良い時間の使い方なんだ。」今年の男女共同参画週間のテーマです。新型コロナの影響により多くの事業が中止になり、日常の有り難さを痛感した一方、初のテレワークをとおして時間の使い方に関する発見もありました。第2次基本計画のもとでWLBをさらに充実させていきたいと考えています。(2020年7月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/